



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

発行:2014年2月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

MR I (3.0テスラ) 導入に当たって ～質の高い医療を目指して～

湘南泉病院 放射線科医 長沼 通郎



平成26年2月から湘南泉病院の放射線科医に着任しました長沼通郎と申します。この度、当院で3.0テスラのMR I (超電導磁気共鳴画像診断装置)を導入したことに伴い、お誘いの話があり、当院の質の高い医療を実践することを目指す姿勢に共感し、お受けしました。

わが国では、放射線科医の業務内容は、一般の方にはなじみが薄いかと思えます。それは、「放射線科医が少ないこと」「自宅近くの診療所にはほとんどいないこと」「病院受診をした際でも放射線科医が主治医になることは稀であること」が挙げられます。そこで、放射線科医の業務内容を簡単に述べさせていただきます。

まずは、一般の方々が普通に思い浮かぶのは、写真を撮ってくれる放射線技師さんたちだろうと思えます。ごく簡単に放射線技師さんの仕事と私たち放射線科医の仕事内容の違いを説明します。まず、技師さんたちが、写真を撮ってくれます。彼らはそのプロですので、例えばCTやMR Iの特性をよく理解し、最善の方法で撮影してくれます。我々放射線科医の仕事は、その写真に対して診断をつける、つまり

「画像診断」です。具体的には、脳のMR Iを見て脳梗塞の診断をすとか胸部のCTを見て肺炎の診断をする、腹部のMR Iを見て胆のう炎の診断をする、などがそれにあたります。また、写真を撮った後だけではなく、写真を撮る前にも仕事があります。技師さんたちはそれぞれの機材のプロですが、我々放射線科医は病気のプロです。どんなタイミングで撮影するか、撮影回数はどうするかといった撮影計画を技師さんと相談しながら立てていくのも重要な仕事です。

実は、放射線科医には2種類あります。ひとつは、先程述べたような画像診断を仕事とする放射線診断医、もうひとつは、放射線を使ってがん細胞を攻撃する、放射線治療医です。どちらも放射線科医と呼ばれますが、実際の仕事は大きく異なります。放射線治療医は患者さんと直接お会いして治療しますので、一般の方々にはどちらかという放射線治療医のほうになじみがあるかもしれませんが、これを機に放射線診断医が院内で何をしているかをご理解いただければ幸いです。

我々が使用している放射線機器には、目を見張る進歩とともに様変わりしてきました。以前は診断が難しかった病変を診断できるようになりました。その中でも最先端な3.0テスラのMR Iを当院が導入したわけです。これは素晴らしいことだと思います。何が素晴らしいかと言いますと、このMR Iで短時間で大量に得られる中枢神経、呼吸器、循環器、消化器、尿路・生殖器、骨軟部の画像を全て正確に診断でき、心臓を含む前身の検査が可能になったということです。これで、どこに病気の原因があるのか一目で診断可能です。ぜひ、機会があれば最新のMR Iの検査をお勧めします。

世界的に20世紀の医療で最も進歩したのは画像診断であるとされていますが、21世紀になり日本での画像診断の普及は圧倒的です。画像診断がこれからの医療において果たす役割はさらに大きくなると考えられます。当院での診療の質の向上や地域医療に貢献できるよう、日々努力していきたいと考えています。

最先端医療機器導入

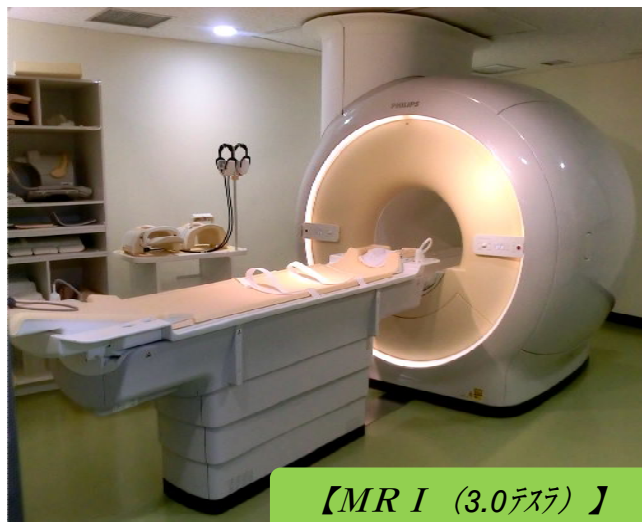
～ MR I 装置 Ingenia3.0T 3.0テスラ フィリップス製 ～

最先端医療機器を導入し、医療技術の向上を常に図りながら、「よりの確な診断・診療」を行っています。

当法人の湘南泉病院でMR I（3.0テスラ）装置を導入しました。

現在、各医療機関ではMR I（1.5テスラ）装置が中心となり普及しておりますが、3.0テスラは1.5テスラと比べて高分解能画像撮影が可能となり、微細な血管だけでなく、今まで不明瞭だった部分も鮮明で詳細な画像が可能となりました。

また、性能だけではなく、検査時間も短縮され患者さまへの負担が軽減できます。



【MR I (3.0テスラ)】



【MR I 操作室】

業界初！3.0Tで心臓MR Iを含む全身のMR I検査が可能となりました。

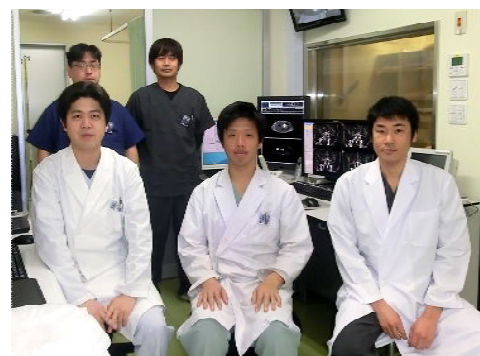
新しいMR I（3.0テスラ）装置では脳神経、整形領域に加え、腹部、心臓対応の「マルチトランスミット技術」という、患者さまごとに最適化した電波送信技術を搭載する事で高画質な画像をご提供できるようになりました。

～すべての領域で3.0Tの画像を～

患者さまの負担軽減を念頭においた設計

～患者さまにやさしい検査を実現します～

- ・空間的なゆとりがあり、不安軽減に役立つ開口径70cmのボア
- ・体重250kgまでの患者さまが楽な姿勢で検査を受けられます
- ・デジタル化されたコイルは大幅な軽量化を実現し、多くの検査で患者さまのポジショニング変更を不要にする
- ・再撮像を減らし、一貫性を高め、検査効率を追求した知的なソフトウェア



『任せて下さい！』
『私たちが担当します！』

◆湘南泉病院では、ご依頼を頂いた検査につきましては、スピーディーかつ高精度な検査対応をご提供させていただきます。